



フィリピンでの活動を報告する古城さん(右)と山崎さん

比台風被災地から帰国

総社市教委、AMD A職員

継続支援の必要性訴え

台風30号の被災者支援でフィリピンに派遣された総社市教委の英語教育サポーター古城デイジーさん(58)と同

国出身、倉敷市と、国際医療ボランティアAMD A(岡山市)の看護師山崎希さん(41)同市が28日、総社市役所で帰国会見し、現地状況を語った。被害の大きかったパ

ナイ島などで医師とチームを組んで医療支援に携わり、古城さんは通訳として患者の病状を伝え、山崎さんは診察の補助に当たった。派遣期間はそれぞれ18

日、10月23日。古城さんは「被災者は夜になると災害が再び起きないか不安そうだった。心のケアが必ず」と強調。山崎さんは「高潮で建物が損壊した沿岸部では、雨にぬれても屋根の下で眠れないため、発熱の症状が目立った」と述べ、継続的な支援を訴えた。

同市とAMD Aは被災地支援の協定を結んでおり、職員派遣は2011年のブラジル豪雨災害に続き2例目。古城さんと一緒に出発したAMD A職員岩本智子さん(29)は倉敷市は12月末まで活動する予定。(森元俊一朗)